

## 経済財政政策部局の動き：経済の動き 景気ウォッチャー調査でみる 2023年の景況感の推移

内閣府政策統括官(経済財政分析担当)付  
参事官(地域担当)付

本田 真理子

### はじめに

内閣府「景気ウォッチャー調査」は、全国2,050人の景気ウォッチャーから、地域の景況について、「良くなっている」から「悪くなっている」まで5段階の「判断」と、その判断理由を「コメント」という形で聴取している<sup>1</sup>。このような2つの次元からなる調査設計により、①5段階の「判断」に基づく景況感指数(DI)を算出し、各月の景況感を定量的に把握できることに加え、②景況感を左右する特徴的な単語(キーワード)をコメントした回答者数(コメント数)やキーワードに言及した回答者グループのDI(コメントDI)を分析することで、景況感の要因を把握できることが特長となっている。

本稿では、2023年に入ってからDIの推移を振り返るとともに、特徴的なキーワードのコメント数とコメントDIの推移から、景況感を形成してきた背景について分析してみたい<sup>2</sup>。

### 経済社会活動の正常化局面で景況感が大きく改善

2023年の「現状判断DI」(3か月前と比較しての景気の現状に対する判断DI)及び「先行き判断DI」(2~3か月前の景気の先行きに対する判断DI)は、1月調査では50を下回っていたものの、2月調査以降は上昇傾向が続き、4、5月調査では現状・先行きともに55程度まで達した。その後は改善テンポに落ち着きが見られるものの、引き続き50を上回る水準を維持している(図表1)。

こうした年前半の景況感の改善について、現状判断DIからその要因をみると、「マスク」と「5類」という特徴的なキーワードが浮かび上がってくる。まず、「マスク」についてみると、3月からマスク着用が任意となったことを受け、3月調査結果ではコメント数が前月の6倍程度(2月:13件→3月:83件)に増加し、全体のDIを押し上げる要因となっていたことが分かる(図表2)。

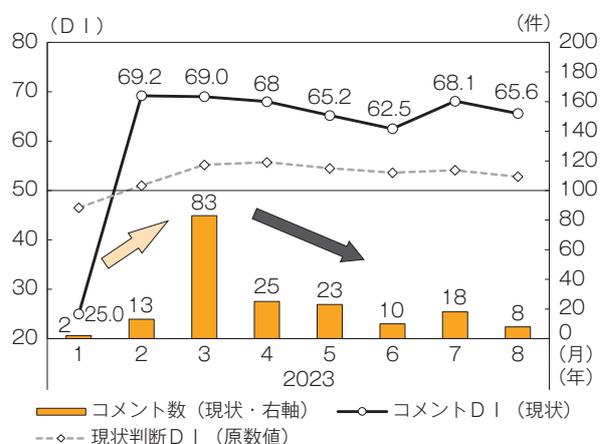
次に、「5類」というキーワードについてみる

図表1 現状判断DI・先行き判断DIの推移



(備考) 1. 内閣府「景気ウォッチャー調査」により作成。  
2. 季節調整値。

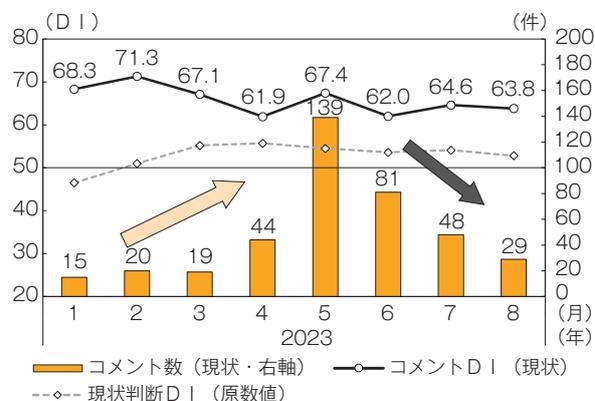
図表2 「マスク」を含むコメント数・コメントDIの推移



(備考) 1. 内閣府「景気ウォッチャー調査」により作成。  
2. 各月調査の景気判断理由から「マスク」が含まれるコメントの数とDIを集計。

と、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」へ移行されたことから、直後の5月調査結果でコメント数が大きく増加するとともにコメントDIも上昇し、景況感の押し上げに寄与していた(図表3)。

図表3 「5類」を含むコメント数・コメントDIの推移



(備考) 1. 内閣府「景気ウォッチャー調査」により作成。  
2. 各月調査の景気判断理由から「5類」が含まれるコメントの数とDIを集計。

1 [https://www5.cao.go.jp/keizai3/watcher\\_index.html](https://www5.cao.go.jp/keizai3/watcher_index.html)

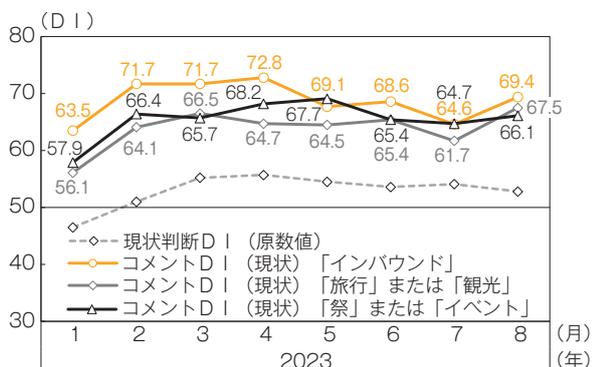
2 本稿は執筆時で得られたデータ(2023年8月調査まで)を基にした内容である。

一方、6月調査結果では、「5類」のコメント数が減少、5類移行も終了し、経済社会活動が正常化する局面で一時的に生じていたモメンタムは弱まり、DIの改善テンポが落ち着き形となった。

## 人流の回復が持続的に景況感を押し上げ

こうしたコロナ禍からの経済社会活動の正常化局面で、一時的に「マスク」や「5類」といったキーワードで表現される動きが景況感の押し上げに作用する中、国内旅行・インバウンド増加とイベントの復活が人流を回復させ、景況感を持続的に押し上げてきた(図表4)。

図表4 「インバウンド」、「旅行」または「観光」、「祭」または「イベント」を含むコメントDIの推移



(備考) 1. 内閣府「景気ウォッチャー」により作成。  
2. 各月調査の景気判断理由から「インバウンド」、「旅行」または「観光」、「祭」または「イベント」が含まれるコメントのDIを集計。

例えば、「観光」または「旅行」のコメントDIは、春休みとGW(3~5月)、夏休み(8月)という時期もあり、65程度の高いDIを維持してきた。また、「インバウンド」のコメントDIは、4月に水際対策が終了し、航空国際定期便や国際クルーズ船が再開したことなどから常に70前後と高めで推移していた。

加えて、各地域で4年ぶりにイベントや祭りが通常開催されることが増え、「イベント」または「祭」のコメントDIも常に65前後を維持して推移した。

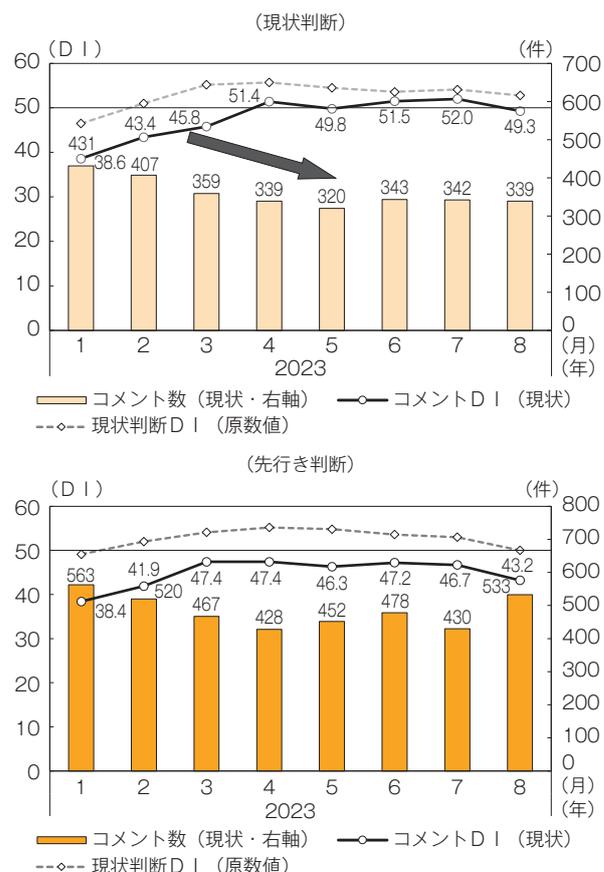
## 物価上昇への警戒感は一進一退

最後に、物価上昇の景況感への影響をみるため、「価」または「値上」というキーワードを含むコメント数とコメントDIの動きを確認したい。

今年に入り「販売単価上昇率>販売点数減少率」により売上の増加・確保ができていたといった内容のコメントや、「物価高が少しずつ当たり前の状態になりつつある」といったコメントもみられ、コメントDIは年初から4月頃にかけて上昇しコメント数が減少傾向で推移してきた。しかしながら、6月の電気料金の引上げ認可や8月のガソリン価格の上昇等により、コメントDIが低下する動きも生じており、その時々の上来事に応じて一進一退の動きもみせている(図表5)。

物価上昇への警戒感、特に先行き判断DIで強まっ

図表5 「価」または「値上」を含むコメント数・コメントDIの推移



(備考) 1. 内閣府「景気ウォッチャー」により作成。  
2. 各月調査の景気判断理由から「価」または「値上」が含まれるコメントの数とDIを集計。

ており、今後もその動向に注意が必要と考えられる。

## おわりに

ここまで確認してきたように、今年に入ってからの景況感、経済社会活動の正常化で景況感が大きく改善した後、一旦改善テンポに落ち着きがみられている。今夏は「①人流回復を背景に景況感を押し上げる力」と「②物価上昇への警戒感により景況感を押し下げる力」のバランスによって動きが形成されていた。②の力は一進一退の動きながらも、大きなトピックがあると景気ウォッチャーは敏感に反応し、景況感押し下げの動きが強まる。

今後、景気が回復を続けていくためには、②の下押しが和らいでいくことが必要となるが、そのためには、物価上昇を上回る賃金所得の増加といった実質的な所得環境の改善がカギとなる。こうした視点も含め、引き続き地域経済の動向や景気ウォッチャーのコメント内容に注目していきたい。

本田 真理子 (ほんだ まりこ)